

“レッツ・トライ”「可燃ごみ10%減量化大作戦」実施について

広報おくたま5月号でお知らせしました“レッツ・トライ”「可燃ごみ10%減量化大作戦」の取組につきましては、6月1日から30日までの1ヶ月間、住民みなさんに可燃ごみ減量化へのトライをお願いし、既に開始をしていただいております。5月号では、トライに向け可燃ごみの減量方法の一部を紹介しましたが、他にも重要な減量方法がありますので参考にしてください。

★紙類の分別・資源化について

紙類は、資源になるもの、ならないもの（可燃ごみ）の2種類にわかれます。下の表を参考に分別を徹底していただくことで、可燃ごみの減量化、また、循環型社会の形成につながります。

資源になるもの（収集日：資源（紙類）の日）	資源にならないもの（収集日：可燃ごみの日）
段ボール、新聞（広告含む）、雑誌、本、紙パック（だし方） それぞれ十文字にひもでしばり、出してください。	アルミがついた紙類、感熱紙、油紙、写真、防水加工紙、ビニールコート紙、石鹼や洗剤の箱、紙コップなど。 詳しくは、「ごみの出し方ガイドブック」の7ページまたは11ページをご覧ください。
雑紙類（包装紙、紙箱、ハガキ、印刷用の普通紙、レシート（感熱紙は除く）、ラップの芯、ノートなど）（だし方） 紙袋に入れ十文字にひもでしばり、出してください。	

【今月の減量化目標】

一人1日当たりのごみ量：令和4年度実績 739.8g

⇒665.8g（-74g）へ“レッツ・トライ”

*結果は、広報おくたま8月号でお知らせします。

《“ごみを減らす10アクション”（食品ロス削減への取組）》

広報おくたま6月号は、日本の食料自給率と食品ロスについてです。日本の食料自給率（カロリーベース）は令和3年度で38%となっています。カナダ266%、オーストラリア200%、アメリカ132%、フランス125%、ドイツ86%、イギリス65%、イタリア60%、スイス51%と、先進国の中では最低の水準となっています。食料を海外からの輸入に大きく依存している日本であるにもかかわらず、年間の食品ロスは612万トン（2017年度推計）、東京ドーム約5杯分が処分されています。貴重な食料を少しも無駄にしないよう食品ロス削減を意識した生活を心がけていただき、ごみの減量にご協力ください。

*「食料自給率」とは、食料の国内消費に対する国内生産の割合を示したものです。つまり、国全体で見た時に、私たちが消費した食料に対して国産がどれくらいかを表す数字です。

今年の狂犬病予防注射はお済みですか？

犬の飼い主は、狂犬病予防法により、飼い犬の登録（生涯1回）と狂犬病予防注射（年1回）が義務付けられています。狂犬病予防注射は、毎年4月から6月に受けることとされています。

狂犬病は、発症後の死亡率が100%と、とても恐ろしい感染症です。

狂犬病予防注射がお済みでない方は、動物病院でお受けいただき、町への届け出をお願いします。

※このページの内容の問い合わせは、環境整備課 ☎ 83-2367